

タチギボウシ

Hosta sieboldii var. *rectifolia*

ユリ科

名前の由来

タチは葉が立ち上がることから、ギボウシは花の形が欄干の柱頭などにつける擬宝珠（ぎぼうしゅ）という飾りに似ていることから名付けられた。漢字名：立擬宝珠

形態的特徴

高さ60～80cm。葉（根出葉）は長楕円形で長い柄を持ち、すべて根元からでて斜め上に伸びる。花は淡紫色～濃紫色の筒状で、茎上部に多数がややまばらに横向きにつく。

類似種と見分け方

オオバギボウシ（開花期）。バイケイソウ、コバイケイソウ（山菜採取時）。

オオバギボウシの葉は卵形で基部がやや心形で、ハート形に近い形になる。葉には葉脈が多く、片側半分の葉脈はタチギボウシでは通常7本であるのに対し、オオバギボウシでは10～17本ある。若芽の時期に山菜として採取する際には、有毒のバイケイソウ、コバイケイソウとよく似るので注意が必要。バイケイソウ、コバイケイソウの若芽では葉が茎を囲むようにつき、葉柄はなく、葉脈はすべて葉の基部からのびる。タチギボウシでは、葉は根元からのび、長い葉柄があり、葉脈は中央にある一本の太いものから枝分かれするようにでる。以上の相違点で見分けることができる。



タチギボウシ



タチギボウシの花



タチギボウシの若芽。山菜として食される



類似種、バイケイソウの若芽。有毒である

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地や山地の湿原や湿草地、林内の湿ったところなどに生育する。

分布：日本固有種のため、国外に分布せず。

国内分布は、本州中部以北から北海道。

北海道内分布は、全道と思われるが、詳細は不明。

十勝地方では、湿原や湿った草地、林内の湿ったところなどで見られる。



タチギボウシ。湿原一面に見られる

生活史

開花時期：7～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。



タチギボウシ。林の下にも見られる



タチギボウシのつぼみ

興味深い話

■若い葉の柄と花が食用になる。若い葉柄はゆでておひたしやあえものにし、生のままてんぷらや汁の具にもなる。花はさっとゆでて酢味噌あえや三杯酢で食べられる。

■若芽の時期は有毒のバイケイソウ、コバイケイソウとよく似るので山菜として用いる際には注意が必要。また採取し過ぎないようにも注意する。

■十勝地方のアイヌ語では「ウクルキナ」という。

配慮事項

生育している環境全体が重要である。



タチギボウシの若芽

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

参考文献

「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜細亜社 2002

「沢井トメノ 十勝本別分類アイヌ語辞典」 本別町教育委員会(編・発行) 1989